

令和3年度第1回 総合戦略推進会議（書面開催）に係る委員からの意見と市の考え方等について

No	委員名	意見		市の考え方等
		(1) 総合戦略の進捗状況	(2) 推進交付金の進捗状況	
1	黒澤尚委員	<p>○概ね目標実現に向けて順調に推移していると思います。</p> <p>○基本目標3について、妊娠・出産・育児に関し更なる支援強化により、定住率、出生数の維持・改善が図られると考えます。</p>	<p><b>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト</b>                      コロナ禍にもかかわらず、サプライズ花火、プライベート花火など工夫を凝らし善戦したと思います。</p> <p><b>②成長的農作物を活用した発酵職IBURIプロジェクト</b>                      いぶりがっこ生産者への助成を強化し、いぶり文化の維持・発展をはかり、廃業者の発生を可能な限り抑制して欲しいと思います。</p> <p><b>③アウトドアアクティビティの聖地創造広域連携事業</b>                      特に意見はありません。</p>	<p><b>(1)総合戦略の進捗状況</b>                      妊娠・出産・育児に関しましては、令和元年度に、出会いから結婚・出産・子育てまで、子育て世代等に寄り添った切れ目のない支援制度を検討、構築するため、庁内関係部署で構成する「子育て支援制度等検討会議」を設置したところであり、制度体系の抜本的な見直しを行い、令和2年度に各事業をスタートしています。                      その後も継続的に会議を開催し、若者や子育て世帯の声を伺いながら、支援制度の利用状況や効果を検証した上で見直しを行っており、市政評価における「結婚・子育て支援」に関する満足度が着実に向上するなど、一定の評価をいただいています。令和3年度には、コロナ禍の影響で大きく変化している子育て等の環境整備に軸足を移して検討を進めており、今後も、結婚、出産及び子育てに喜びと安心を感じられる充実した社会環境の実現を目指して、当該検討会議を中心に検討していきます。</p> <p><b>(2)推進交付金の進捗状況</b>                      ②いぶりがっこの生産につきましては、令和2年3月に策定した「大仙市農業と食に関する活性化基本構想」に基づき、いぶりがっこの原料となる大根の生産拡大に対する支援を行っており、今後も大仙市の強みの一つとしてさらなるブランド化と生産の拡大に取り組んでいきます。</p>

No	委員名	意見		市の考え方等
		(1) 総合戦略の進捗状況	(2) 推進交付金の進捗状況	
2	挽野実之委員	コロナ禍という特殊事情をみると、そのまま評価や進捗状況について、ストレートに受けとることはできないものもある。今後のwithコロナの状況での戦略に修正を加えていく必要があるのではないのでしょうか。	左記と同じく、そのまま評価できない点が多い。	令和2年度から取組を進めている第2期となる総合戦略は、新型コロナウイルスが全国に拡大する前に策定したものであり、このように影響が長期化することは予想していませんでした。新型コロナウイルスとの共存が常態化している今、ここしばらくはコロナ禍をきっかけに変化した社会や私たちの生活は元に戻らないとの指摘もあることから、中間年である令和4年度から5年度にかけて、ウィズコロナを前提に事業やKPIの検証をした上で、必要に応じて見直しを行っていきたくと考えています。
3	久米川和行委員	-	-	-
4	武田孝雄委員	-	-	-
5	工藤浩一委員	全体的におおむね順調に推移していると思います。しかし、コロナの影響により様々な活動が制限され進捗状況Cという評価も見られます。最近よく聞く言葉で「コロナが落ち着いたとしても以前のように戻らないだろう」がありますが、進捗状況C評価以下の数値目標がこのままで妥当なのか。例えばR7まで「コロナの影響による中止、延期、制限、生活様式の変化等」などの理由で目標が達成されない前提が色濃い状況では、「そもそもKPIの設定が問題だから」と取り組む側のモチベーションが上がらないのではと感じています。	<p><b>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト</b>  情報発信について「大曲の花火」公式サイト内で「プライベート花火」について触れた方がいいのではないかと思いますがいかがでしょうか。観光と絡めた企画か何かあったように記憶していますが、もしあれば今以上に付加価値が期待されるかもしれません。</p> <p><b>③アウトドアアクティビティの聖地創造広域連携事業</b>  コロナ禍の三密を回避でき山、川、雪、空といった自然をフィールドとして遊ぶアウトドアがブームとなっているようです。ある企業の調査では20代から60代の約5割がキャンプに行きたいと答え、キャンプ経験者の5人に1人がコロナ以降にキャンプを始めたということでした。この事業は大仙市の自然を生かした魅力発信になるものと思っています。また、ふるさと博士育成事業と連携していますが、案内の周知部分で工夫すれば親子での参加をさらに獲得できると思います。コロナ禍ではあるものの感染対策をしっかりと行い、事業を盛り上げていただきたいと思います。</p>	<p><b>(1)総合戦略の進捗状況</b>  前述のとおり、中間年である令和4年度から5年度にかけて、ウィズコロナを前提に事業やKPIの検証をした上で、必要に応じて見直しを行っていきたくと考えています。</p> <p><b>(2)推進交付金の進捗状況</b>  ①「プライベート花火」については、「大曲の花火」公式サイトへの情報追加を検討するとともに、様々な方法で積極的に情報を発信していきます。  観光分野と連携した企画については、令和2年度に、秋田県観光地創生支援事業を活用し、プライベート花火の鑑賞と市内の観光スポットを体験していただく招待事業を実施したほか、令和3年度には、プライベート花火などと観光資源を組み合わせた旅行商品の造成を促進するため、旅行エージェント等を対象とした招請事業を実施しており、参加者からは、プライベート花火や周辺観光を組み込んだツアーを企画したいなどと好評をいただいています。今後も本市観光のさらなる振興に向け、花火を核に工夫を凝らした事業を検討していきます。</p>

No	委員名	意見		市の考え方等
		(1) 総合戦略の進捗状況	(2) 推進交付金の進捗状況	
				③アウトドア・アクティビティは、3密を防ぎながら活動することのできる、ウィズコロナに対応した効果的な取組と捉えています。今後も県や美郷町と連携しながら、本市の豊かな自然環境を活かしたイベントなどを積極的に企画・実施するとともに、より多くの方から参加いただけるよう、情報発信にも力を入れていきます。
6	杉山武志委員	<p>○目標値の決め方にもよりますが、進捗状況はおおむね妥当と思います。</p> <p>○資料2-1、No.14の評価がBは少し甘いと感じました。</p> <p>○大仙市の人口減少をくい止めることは大変ですが、魅力的な産業をふやし、人を集めること、それを基に大仙市を持続可能なふるさとにしたい。</p>	<p><b>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト</b></p> <p>花火は大仙市にとって重要な観光資源であり、市をあげてこれを支えていきたい。コロナで大変な状況ですが、何とか安全に実施できる方法を工夫し、観光客に長くいてもらうことも大切である。</p> <p><b>②成長的農作物を活用した発酵職IBURIプロジェクト</b></p> <p>「いぶりがっこ」産地化の取り組みは計画的に進められてすばらしいと思います。</p>	<p><b>(1)総合戦略の進捗状況</b></p> <p>ご指摘の資料2-1、No.14については、目標10件に対し、令和2年度実績が1件となっていますが、計画初年度であることに加え、オンラインを活用した機会創出の取組も進めているところであり、こうした定性的な部分も加味して評価したところ です。今後計画期間が経過するにつれ、他の指標も含め、より具体的な進捗状況が見えてくると考えています。</p> <p>総合戦略の重点施策として、産業を振興し、まちの活力につなげていくこと、そして地域資源を磨き上げ、新たな産業を育成、発展させていくことを掲げており、企業誘致の推進や、DXなどの新たな潮流を捉えた地元企業の新分野への挑戦、事業拡大に向けた取組を応援するとともに、テレワークなどの新しい働き方の促進などにより、産業の振興を図るとともに、地域資源を活用した新たな産業の創出にも取り組んでいきます。</p> <p>こうした産業の振興をはじめとする各種施策の推進により、直ちに若者の社会減や出生数が改善したとしても、人口減少の流れはしばらく続くと考えられます。このような人口減少下にあっても活力があり、持続可能な大仙市を築いていくためには、大仙市に住み、あるいは活動するすべての皆さんの理解と主体的な行動が重要であると考えていますので、引き続き協働のまちづくりを推進していきます。</p>

No	委員名	意見		市の考え方等
		(1) 総合戦略の進捗状況	(2) 推進交付金の進捗状況	
7	田村誠市委員	<p>人口ビジョンと総合戦略について</p> <p>4つの基本構想</p> <p>1. 新規就農者数については評価のとおり良い。今後の受け皿の法人経営の強化が課題（他産業並みの賃金の確保が必要）</p> <p>2. Aターン就職者の地元への期待はこれからも多くなると思う。ありきたりだが就業先の地元企業、基幹農業の魅力の発信。</p> <p>3. 子育て支援については、保育料の無償化等は効果があったと思う。子供は小学校卒業位になるまでは、風邪等で体調を崩すことが多い為、勤務先においても保護者の遅刻や時間抜けできる環境を作り出す。</p>	<p><b>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト</b></p> <p>「花火のまち大仙」の国内外への発信し、消費をはかる等はコロナウイルス感染等の影響により計画どおりにならないのはいたしかたない。</p> <p><b>②成長的農作物を活用した発酵職IBURIプロジェクト</b></p> <p>特産品であるいぶりがっこも同様、いたしかたない。</p>	<p><b>(1)総合戦略の進捗状況</b></p> <p>1.新規就農者は法人雇用が多い状況となっていることから、生産基盤の整備や農地の集約を引き続き促進するとともに、高収益作物の栽培や低コスト化、省力化など、経営基盤の強化に取り組む意欲的な経営体を強力に支援していきます。</p> <p>2.就職に関しては、情報不足や希望する職種がないとの意見も多くあることから、インターン制度やオンライン面接会などを通じて地元企業のPRを強化するとともに、Aターン起業を重点的に支援していきます。また、サテライトオフィスの誘致やテレワークなどの新しい働き方も積極的に推進していきます。</p> <p>3.男女ともに仕事と育児を両立できる社会の実現に向けて、育児・介護休業法が改正されており、育児休業を取得しやすくするための「雇用環境整備の義務化」や「出産時育児休業（産後パパ育休）制度」などが令和4年4月から段階的に施行されます。こうした制度が定着するよう市としても企業と連携した取組を進めていくとともに、前述の「子育て支援制度等検討会議」において継続的に制度の見直しを行いながら、子育て世代に寄り添い、安心して子育てができる環境を創っていきます。</p>
8	元吉峯夫委員	-	-	-

No	委員名	意見		市の考え方等
		(1) 総合戦略の進捗状況	(2) 推進交付金の進捗状況	
9	鈴木直樹委員	<p>○総合戦略は、商売と同じで、市民が満足する数値が目標となる。中には評価が甘いものが見受けられる。新商品開発、新規開店、移住体験…</p> <p>○発想を柔軟に新しいアイデアで取り組んでもらいたい。</p>	<p>事業全体から革新性が感じられない。</p>	<p>○今年度の評価については、前述のとおり、計画初年度であることや新型コロナウイルス感染症による影響などを考慮して行っていますが、中間年である令和4年度から5年度にかけて、ウイズコロナを前提に事業やKPIの検証をした上で、必要に応じて見直しを行っていきたいと考えています。</p> <p>○ご指摘のとおり、コロナ禍などによる社会全体の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題へ対応していくためには、これまでの既成概念にとらわれない、柔軟な発想が必要であると考えており、令和4年度からは、夢や希望に向かってチャレンジする若者を総合的にサポートする「若者チャレンジ応援プロジェクト」を新たにスタートしています。若者の創意あふれる発想と熱意ある行動を原動力にローカルイノベーションを推進し、地域の課題解決や活性化を通じて、本市の持続的な成長につなげていきます。</p> <p>本市の持続的な発展に向けた取組は、行政だけで成し得るものではなく、関係する皆さん一人一人の理解と行動が必要となっています。市民や関係機関・団体の皆さまからご意見を伺いながら、連携を強化し、これまでになかった新たな取組にもチャレンジしていきたいと考えていますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。</p>
10	島村和彦委員	<p>コロナ禍においてやむを得ない部分もあるが、概ね順調に推移しているように見受けられる。引き続き関係部門には尽力いただきたい。</p>	-	-
11	伊藤慎一委員	<p>○まずは、当該目標のご準備、企画運営を適切に遂行されていることに敬意を表します。</p> <p>○昨今の社会情勢の影響から一部達成に苦慮されている項目も見られますが、都度見直しが行われており、全体として問題ないと判断しました。</p>	<p>大仙市の花火、発酵食文化、豊かな自然と、大仙市が持つ地域ブランドを適切に実行しています。人流の面から入り込み数において、少し改善を期待する項目もありますが、これまでの生活様式に戻ったときを見据え、当該目標を進められることを希望します。</p>	<p><b>(2)推進交付金の進捗状況</b></p> <p>コロナ禍により、観光入込客数は大幅に減少していますが、プライベート花火などのコロナ禍を踏まえた取組も実施しているところであり、引き続き計画している取組を着実に進めていくとともに、ウイズコロナを念頭に創意工夫を凝らした取組を企画・実施していきます。</p>

No	委員名	意見		市の考え方等
		(1) 総合戦略の進捗状況	(2) 推進交付金の進捗状況	
12	鈴木匡尚委員	-	-	-
13	舘岡新委員	各基本目標とも進捗状況は順調であり、総じて評価できるものと思われます。	特にありません。	-
14	木藤康嗣委員	-	-	-
15	小原庸補委員	-	-	-
16	佐藤一委員	-	-	-
17	佐渡敏夫委員	<p>○基本目標1の(4)商業の振興と魅力向上について、順調な推移とは言えないのではと思います。もう少し違った視点で捉えてみても良いのではないかと考えます。</p> <p>○基本目標2においては、感染症の影響も有り、評価については難しいのではないかと考えます。</p>	<p><b>③アウトドアアクティビティの聖地創造広域連携事業</b></p> <p>感染症の影響で思う様に進捗できなかったと思いますが、私としては、今後も期待したい事業だと思います。このような時期には、情報発信に力を入れ、魅力を伝える工夫をしてみたいと思います。</p>	<p><b>(1)総合戦略の進捗状況</b></p> <p>○基本目標1の(4)商業の振興と魅力向上については、空き店舗の増加を防ぎつつ、個店のバリエーションを豊かにすることで、商店街の魅力が向上し、商業の活性化につながるとの観点から指標としたものです。戦略パッケージとの関連性が分かりづらい部分もあることから、評価の際には全体の創業件数との比較や空き店舗の状況等も踏まえて行っています。</p> <p>○前述のとおり、計画初年度であることや新型コロナウイルス感染症による影響などを考慮して評価しています。今後計画期間が経過するにつれ、他の指標も含め、より具体的な進捗状況が見えてくると考えています。</p> <p><b>(2)推進交付金の進捗状況</b></p> <p>③アウトドア・アクティビティは、3密を防ぎながら活動することのできる、ウィズコロナに対応した効果的な取組と捉えています。今後もイベントなどを積極的に行いながら、SNS等を活用した情報発信にも力を入れ、本市の強みである豊かな自然環境を活かした取組を進めています。</p>
18	吉田範子委員	初めての参加で意見等はないです。この資料で進捗状況を少しですが把握できてとても勉強になりました。	-	-

No	委員名	意見		市の考え方等
		(1) 総合戦略の進捗状況	(2) 推進交付金の進捗状況	
19	遠藤まき委員	-	-	-
20	佐々木千秋委員	資料拝見しました。具体的な数値も多く、大変わかりやすい内容でした。英語教室運営という職業上、子ども達とのご父兄と関わる機会が多いので、特に基本目標3について興味深く拝読しました。私自身、高校卒業から12年間大仙を離れていましたが、小さい頃の人との温かいつながりを忘れたことはなく、Aターン致しました。生まれ育った故郷の良さを、子ども達に伝えていく事は、小さな積み重ねですがとても大切だと思います。	大仙市は花火しかない、とも聞きますが、それで良いのです。“HANABIのまち”を極めていきましょう。IBURIプロジェクトやアウトドア・アクティビティなどのプロジェクトにも花火をモチーフにしたIBURIがっご商品とか、花火が最高にながめられる場所など、花火ありきで進めていくのはいかがでしょうか。	<b>(2)推進交付金の進捗状況</b> いただいたご意見のとおり、本市の最大の地域資源は「大曲の花火」と認識しており、平成26年度からは大仙市花火産業構想のもと、花火を核に様々な分野と連携した取組を実施しています。今後も、この構想のもと、農業や教育など多分野との連携により、「大曲の花火」のブランド力を最大限活かした取組を進めていきます。また、本市には農業と食や歴史・文化など多くの魅力的な地域資源が存在していることから、地域おこし協力隊など外からの目線を取り入れながら、花火以外の地域資源を活用した取組も積極的に展開していきます。
21	堀川克利委員	基本目標1：KPI(1)1、2関連して全体 現状分析・課題、今後の取組方針に記載されているように、新規就農者の定着、後継者確保や法人の統合について長期的な視点のもと引き続きの取組を期待します。なお、以下の点について参考として記載します（以下同様）。 ○現在はR7までの認定農業法人数を達成していますが、その法人全体の黒字をキープすることにより新規就農者の定着も期待 ○分野は違いますが農業以外の産業にも通じるため、農業法人、製造業の利益率（または販売額）の向上といったアウトカム指標の増設 ○「雇用の維持と損しない経営」から「雇手を拡大し利益を拡大する経営」となるような啓発的な取組の推進	ございません。	<b>(1)総合戦略の進捗状況</b> 基本目標1 農業や商工業などの産業は、地域経済を支え、就業機会と所得をもたらす地域活力の源であり、人口減少や少子高齢化の抑制など、本市の課題解決を図る上で重要な基盤となるものです。引き続き、コロナ禍により影響を受けている企業等の経営安定化を図るとともに、コロナ禍を契機とした田園回帰の動きや、DX、カーボンニュートラルなどの世界的な潮流を捉えた新たなビジネスモデルの創出、地元企業の競争力強化、事業拡大支援など、地域産業の持続的発展に向けたサポートを行ってまいります。

No	委員名	意見		市の考え方等
		(1) 総合戦略の進捗状況	(2) 推進交付金の進捗状況	
		<p><u>基本目標2：全体</u>            計画策定時と情勢が大きく変わったため「対面」「交流」といったキーワードの事業に大きな支障が生じ個々の取組の達成度は低くても代替の取組をされたと推察されますので、やむを得ないものと思います。</p> <p>○afterコロナをイメージし、地域の強みを活かし、地域で生まれ育った若者、他地域から来た若者を各種取組に参画させながら戦略に反映</p> <p>○今後もあの手この手と工夫を凝らして、各種事業を臨機応変に実施していくことや近隣市町と連携し、若い人のアイデアを活かした地域資源の磨き上げ、情報発信</p> <p><u>基本目標3：意見無し</u></p> <p><u>基本目標4：数値目標⑦</u></p> <p>○R2、R3の市政評価調査（貴市HPより）の満足度（R2：87.1%、R3：87.2%）は横ばいであるが、ネット利用も可能としたものの回収率（R2：67.6%（過去最高）、R3：47.0%）が大きく低下したことが気がり</p>		<p>基本目標2            令和4年度から新たな取組として、夢や希望の実現に向かってチャレンジする若者を総合的にサポートする「若者チャレンジ応援プロジェクト」をスタートしています。専任の部署を設置し、夢や希望の実現、あるいは地域の課題解決や活性化に向けた若者の様々なチャレンジを支援していくこととしています。また、「人」や「組織」「情報」をつなぐハブ機能を担う特定の枠組みにとられない組織体として「だいせんLabo」を開設しており、企業や金融機関など多様な主体の参画のもと、オープンラボとして地域資源を活かしたローカルイノベーションの創出にも取り組んでいきます。</p> <p>基本目標4            令和3年度に実施した「市民による市政評価」のインターネット調査は、特定の層を対象とした個別事業評価で実施したものであり、18歳～40歳未満を対象として実施しています。この年代はもともと比較的回答率が低い年代であり、市政全般を調査する市政評価における同年代の回答率を算出すると、40%弱となっていることから、個別事業評価全体の回答率36.4%と大きな差は見られない結果となっています。今後も回答率の向上を図りつつ、インターネット調査を活用しながら引き続き調査を実施し、「市民の声」を市政へ反映させていきたいと考えています。</p>
22	佐藤和則委員	-	-	-
23	福原尚虎委員	<p>住み良さや街の魅力など、自分（FMはなび）も取り組んでいる一員として数字を見ました。自分自身も含めて一層の努力をしなくてはと思いました。</p>	<p>結果がすぐに目に見えないものもあると思いますが、根気強く取り組んでいこうと思います。</p>	-



No	委員名	意見		市の考え方等
		(1) 総合戦略の進捗状況	(2) 推進交付金の進捗状況	
24	佐藤務委員	<p>○資料そのものが良くまとまった内容となっている。</p> <p>○「市への移住者数」と「出生数」がC評価となっているが、新型コロナウイルスの感染状況を考慮した場合、ここ2年間は、通常の評価は難しく、コロナ禍でも、それぞれの部署が頑張っていることを評価してあげたい。</p> <p>○観光客数、スポーツ合宿数、外国人旅行客の減少に伴う進捗状況は「遅れ」ではなく、単に減少しているとの表現で良いのではないか。</p> <p>○ワークライフバランスの推進におけるセミナー等の普及啓発が中心の事業であれば、Youtubeなどの媒体を活用した情報発信を検討した方が良いのではないか。コロナ禍において、対面形式だけの開催準備は、費用対効果を考慮した方が良いのではないか。</p>	<p><b>①世界に発信する「HANABIのまち大仙」活性化プロジェクト</b></p> <p>外国人観光客の減少による宿泊者の大幅な減少はいたしかたないが、VRを活用した情報発信及び「ウィズコロナ」を意識した「徹底した感染予防対策のまち」の情報発信が必要ではないか。</p> <p><b>②成長的農作物を活用した発酵職IBURIプロジェクト</b></p> <p>いぶりがっこの二次商品数「目標1」が達成できていないことが、非常に残念であり、折角、脚光を浴びている時に、市場調査及びニーズをしっかりと捕まえた商品開発が必要と思う。</p>	<p><b>(1)総合戦略の進捗状況</b></p> <p>○進捗状況については、目標に対する実績の状況を記載したのですが、今後記載方法等について検討させていただきます。</p> <p>○ワークライフバランスの推進については、ご指摘のとおりであり、オンラインでの開催など、ウィズコロナに対応した方法を検討していきます。</p> <p><b>(2)推進交付金の進捗状況</b></p> <p>①コロナ禍の影響により、人流が大幅に抑制される中で、ウィズコロナに対応する観光商品の開発に取り組むとともに、アフターコロナを見据え、観光PR映像の作成・配信など、情報発信にも力を入れてきたところであり、引き続きデジタル技術も活用しながら取組を推進していきます。</p> <p>②いぶりがっこにつきましては、平成31年に市場動向調査を実施しており、一大消費地である首都圏においてはいぶりがっこの認知度が低く、情報が不足していることや、海外市場の可能性があることが明らかとなったところです。これを受け、首都圏でのPRや販路拡大に向けた生産拡大への支援などに取り組んでいます。</p> <p>商品開発については、「いぶりがっこ二次商品開発アイデアコンクール」の実施や「6次産業化セミナー」の開催など、商品企画から販路開拓まで農業者の事業化に向けた支援も行っています。今後も、県内一の生産量を誇る本市の特産品として、PRの実施や生産拡大、新たな商品開発などへの支援を行っていきます。また、令和4年3月には株式会社ドリームリンク様と協定を締結し、大仙市産の農産品を活用した飲食メニューの開発・普及など、食を通じた地域の活性化に連携して取り組むこととしており、今後、いぶりがっこを使用したメニューの開発や飲食店での提供など、積極的に取組を進めていきたいと考えています。</p>